

葉とらずりんごの樹相診断

「葉とらずりんご」の好適樹相は平均新梢長 10~20cm、葉色 (SPAD 値、6月下旬) 48~50、葉色 (SPAD 値、9月下旬) 50~52、葉面積 23~30c m²、2次伸長枝率 10%以下、葉中窒素濃度 1.8%以下である。

樹相要因と果実品質の間には高い相関関係があり、6月下旬に新梢長・葉色を、9月下旬に葉色・葉面積・2次伸長枝率・葉中窒素濃度を計測することにより、「葉とらずりんご」として利用するための樹相診断が可能である。

着色系ふじ(わい化栽培)を利用した、「葉とらずりんご」の果実品質目標と好適樹相は以下のとおりである。

表1 葉とらずりんごの好適樹相

平均新梢長 (6月下旬)	10~20cm
葉色 (SPAD 値) (6月下旬)	48~50
葉色 (SPAD 値) (9月下旬)	50~52
葉面積 (9月下旬)	23~30c m ²
2次伸長枝率 (9月下旬)	10%以下
葉中窒素濃度 (9月下旬)	1.8%以下

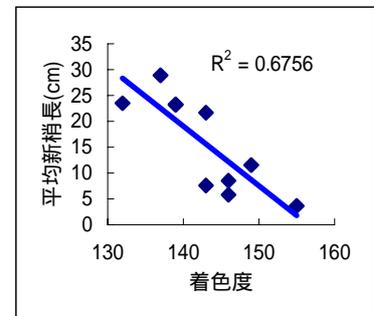
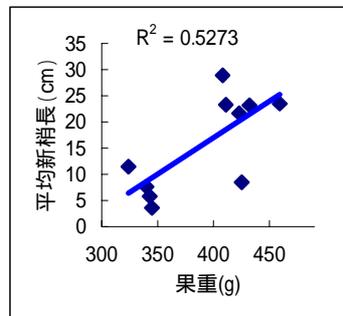


図1 樹相要因と果実品質
新梢長は着色度と負の相関関係にある。
果重とは正の相関を示す

表2 果実品質目標

着色度	均一度	熟度	果重	糖度
140以上	80以上	33以上	350g以上	15%以上



図2 葉とらずりんご
外観を重視せず、着色管理の省力化が可能な食味の優れた果実

表3 樹相診断の方法

調査項目	調査方法
平均新梢長 2次新梢枝率	<ul style="list-style-type: none"> 1樹当たり、目通りの高さの中庸な勢力の側枝1本上の全新梢長(6月下旬)及び2次伸長枝率(9月下旬)を調べる。 果台枝も新梢として計測するが、果台部は新梢の長さには含めない。
葉色 葉面積 葉中窒素濃度	<ul style="list-style-type: none"> 樹冠外周の目通りの高さで、水平に近い新梢(20cm程度)の中央部の葉を、1樹当たり10枚を採取し、調査する。